☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

丹波新聞　平成２９年７月１３日（木）

男子と一緒に白球追う

氷上西高野球部

女子部員3人が在籍

規定で選手なれず「甲子園予選楽しんで」

柔らかいグラブさばきで捕球したボールを送球する渡辺さん。右端が足立さん＝氷上西高校で

ソフトボール経験者「西高ならでは」

男子部員にエール送る

甲子園球場で行われる「全国高等学校野球大会」の県予選が繰り広げられている。野球部の男子部員が６人と、他の運動同好会から助っ人を集め予選に出場する氷上西高校野球部には、男子と同じ練習をしてきた女子部員が３人在籍している。高野連の規程で、女子の選手登録はできず、公式戦に出場できないことは承知の上で、男子と共に白球を追って来た。公式戦では「マネージャー」を務める。「声をかけ合って、大会を楽しんでほしい」と男子部員にエールを送っている。

（足立智和）

同部は男子6人、女子3人。大会の前のみ合流する助っ人と違って、女子3人は毎日部活に参加。大雪に見舞われた冬もトレーニングや基礎練習に一緒に励んできた。

ウォーミングアップからノック、打撃練習まで男子と全く同じ練習メニューをこなす。相手チームの了承を得た上で、練習試合に出場もした。

〝部員1号〟は2年生の渡辺美里（みり）さん（氷上中出身、右投げ、左打ち）。1年生の春にマネージャーになりたいと監督に申し出たところ、部員数がさほど多くないことを理由に断られ、「選手なら」と声をかけられた。渡辺さんは、中学校ではソフトボール部。「引き続きやってみよう」と飛び込んだ。

3年生の足立麻緒さん（青垣中出身、右投げ、右打ち）は、2年生の途中までは専業マネージャーだったが、渡辺さんに誘われ、選手兼マネージャーに。「女子1人は嫌だけど、2人ならできると思った」と振り返る。遅れてもう1人加わった。全員がソフトボールの経験者。

渡辺さんは「球の弾みが全然違う。バットの芯に当たらないと手がしびれるし、打球は速くて捕れない。今も硬球への恐怖感はある。男子との違いは体力かなあ」と苦笑い。「おもしろい人ばかりで練習は楽しい」と明るい口調で思いを語った。

足立さんは「この球を捕れるようになりたい、もっと打球を飛ばしたいという気持ち。女子が部員になって男子と一緒に練習できるのも西高ならでは。楽しくわちゃわちゃできています」と表情を崩す。「自分も男子もけがをしないよう気をつけている。手当をすぐしたり、けがを減らすことを考えるのはマネージャーの仕事」と男子のケアにも心を砕いている。

足立寛監督は、「部員が少ないので何かと助かっている」と目を細め、「渡辺さんは筋力面で苦労しているが、体の使い方が上手で男子の参考になる。足立さんは運動能力が高く、もっと早く始めていたら男子と同じとまではいかないけれど、いい線までいったのでは」と評した。

氷上西は16日、伊丹北と対戦する。